

人と人をつなげるコミュニティスペース

愛媛県内子町 みそぎの里運営協議会





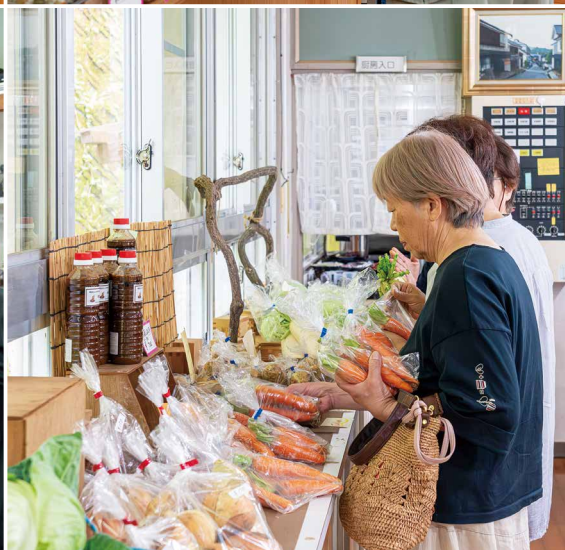
みそぎの里カフェのスタッフの方々



西川さん



左から 久保さん 熊野さん 稲月さん



江戸時代から続く町並みが残る内子駅。そこから、車で15分。田んぼを眺めながら山間の方へ走ると、小さな学校が見えてくる。今回の取材先は、地域コミュニティを象徴していた旧御祓小学校を「コミュニティスペースみそぎの里」として運営している、みそぎの里運営協議会だ。

1889年、2つの村が合併して御祓村が生まれた。「御祓」の名前については諸説あり、「高尚な人物が川で穢れを落とした」などが言われている。その後、1954年に五十崎町に統合され、2005年に再び統合により内子町の一部となった。

旧御祓小学校は、2014年3月に閉校。137年の歴史があり、この地域にある唯一の小学校だった。「運動会では、各集落で子どもから高齢者まで多くの人々が参加し、とても賑やかでした」と、当時について語るのは、親の介護のため御祓に戻り、校舎内にある「みそぎの里カフェ」のスタッフをしている西川さん。

そんな、御祓のコミュニティを代表するような小学校が閉校になり、地域にどこか寂しさがあった。その雰囲気を感じた、当時御祓自治会の事務局長をしていた久保さんは「なんかはせないけん」との思いで、廃校の校舎を活用してカフェ事業「みそぎの里カフェ」をすることに。様々なアクシデントがあったが、2017年にオープンすることができた。そして、2019年2月。地域おこし協力隊として熊野さんが着任。ここから、御祓での取り組みが、一層活性化しはじめる。

埼玉県出身の熊野さんは、会社員として電車通勤する日々の中で、地方移住の情報を検索していた。そんなとき、内子町に移住し炭焼き職人をしている人の記事に釘付けに。すぐにも内子町へ行きたいという思いから、棚田での農作業体験ツアーに参加。ここで、後に移住をサポートしてくれる内子町役場の稲月さんと出会う。熊野さんは早速移住の相談を持ちかけるが、肩書きがない状態で女性が一人で暮らすのは難しいだろうと、稲月さんは地域おこし協力隊の制度を紹介。熊野さんはその制度を活用して御祓へ移住することとなった。



ゆるやか文庫



青山さん



ぼたり珈琲



黒岩さん



大野さん

着任後は、すでに始まっていたカフェをさらに盛り上げるため、御祓で採れる野菜や米を使ったメニューへの切り替えや、カフェスペースの改装などを地域の方々とともに実施。カフェは2019年5月にリニューアルオープンし、地元の人はもちろん、観光客にも楽しめる場所となった。この日、新潟県から訪れた大野さんは「カフェの食事がとても美味しくて、雰囲気も最高です」と笑顔を見せてくれた。

カフェが軌道に乗り出した頃、世界はコロナ禍に突入。それでもカフェの営業は続けることができていたが、地域拠点としてのさらなる展開を目指すため新たな事業を模索することに。そんな時、内子町内で貸本屋をしていた青山さんから「校舎の空いている部屋に本を置かせてほしい」との相談が舞い込む。この話をきっかけに、物置き場ではなく、地域に関わりながらの活動を目指す事業者たちの仕事の拠点として活用し、自分達で校舎全体の運営を行うことを思い立つ。

そこで運営母体となる「みそぎの里運営協議会」を地域と共に立ち上げ、熊野さんの地域おこし協力隊としての最後の任期である2021年に、校舎全体を借りてテナント事業を開始することが決まった。当初は4事業者からのスタートだったが、現在は11事業者がテナントとして入居している。取材日に営業していた事業者を紹介する。

【ゆるやか文庫】

熊野さんに「本を置きたい」と相談した青山さんが営む、和紙専門の印刷所。みそぎの里校舎全体が利用可能となったタイミングで独立を決めた。内子に先に移住されていた方から引き継いだ活版印刷機を使って印刷もできる。

【ぼたり珈琲】

本業のかたわらイベントで珈琲を提供していた黒岩さん。コロナ禍に古民家で店を始めようと考えていたが、みそぎの里の空き教室貸出を聞き、入居を決めた。店内では珈琲の他、暮らしに寄り添う古道具、蒐集したコーヒーマイルの販売をしている。



泉さん



髪きりや



うちっこ整体



向井さん(右)



和氣さんご夫婦



とおん舎

「御祓という地名は無くなってしまったけど、みそぎという名前は残したい」。ここで生まれ育ち、みそぎの里運営協議会の代表をしている久保さんはそう話す。

御祓で生まれ育った人、御祓に移住して来た人、御祓に観光をしに来た人も、この場所で自然に集い、ゆるやかに交流し、温かい関係性が生まれている。「みそぎ」という名前は、コミュニティを象徴する言葉として、今でもこの地に残っている。

【連絡先】 みそぎの里運営協議会
愛媛県喜多郡内子町只海甲 456
TEL : 0893-43-0620

地域おこし協力隊の任期終了後、熊野さんは御祓地区の方と結婚し、子育てをしながら、地元の人としてみそぎの里の活動に関わっている。現在、みそぎの里の中心となっているのは、7年前に結婚を機に御祓へ移住してきた泉さんだ。「移住したばかりの時に、カフェがあったので、すぐに地域に馴染めました」という泉さん。その言葉からも、「コミュニティスペースみそぎの里」が本来の意味で地域の拠点になっていることが伝わってくる。

東京で美容師をやりながら、月の初めの1週間のみそぎの里で美容室を営んでいる向井さん。御祓小学校出身で、たまテレビでここでの取り組みを知り、拠点を持つことに。

【髪きりや】
オリジナルの包装紙の販売とZINEや大洲和紙で作ったブローチなどを販売している和氣さんのお店。うちっこ整体の和氣さんとご夫婦で、以前は保健室であった場所を拠点にして活動している。

【うちっこ整体】
内子町で整体のお店を営みながら、出張所として主に第2・4土曜日にここで施術をしている和氣さん。農家の方が多い御祓で、地域の方々の身体を整え、健康相談の場所にもなっている。